

神社の境内で観客を楽しませる

令和6年度六郷の奉納かけ唄大会 & じんじゃず

「令和6年度六郷の奉納かけ唄大会」および「じんじゃず」が、8月23日に六郷地区の熊野神社境内で開催されました。

出場した10名の唄い手のうち3名が初出場となった今回のかけ唄大会。物価上昇やクマ出没についてなどの世相を反映した掛け合いや、初出場の意気込みをうたった唄が披露されました。白熱した戦いは深夜にまで及び、妻野敏夫さん(横手市)が2度目の優勝を果たしました。かけ唄大会の合間にはじんじゃずが行われ、参加者による歌や演奏は観客を大いに盛り上げました。



各界のスペシャリストから学ぶ

美郷カレッジ

コンテンポラリーデザインスタジオ「we+」の林登志也さんと安藤北斗さんが講師を務めた今年度最後の美郷カレッジが、9月14日に美郷町公民館で開催されました。

「コンテンポラリーデザイン～デザインの新たな可能性の探求～」と題した講演では、「時代ごとにデザインに求められる役割は変わり、社会の主流に対するカウンターパートとして新しいデザインの概念が存在してきた(林さん)」「経済・産業を助けるためのデザインから、文化・人間のためのデザインに変わってきた(安藤さん)」とし、廃棄された発泡スチロールから椅子を作る様子を紹介しながら「東京が生み出す廃材を土着の素材と見立て、自然と人工の融合した新たなものづくりに力を入れている」と話しました。ほかにも風のそよぎを表現したインスタレーションなど、コンテンポラリーデザインによって生み出された作品が動画で紹介されると興味深そうにスクリーンに見入る受講者の姿が見られました。



20周年記念大会を開催

美郷町民パークゴルフ大会

美郷町では各種スポーツ大会が開催されていて、今年はその多くが20回目の節目を迎えます。9月15日には「美郷町民パークゴルフ大会」が雁の里山本公園パークゴルフ場で開催されました。

大会は、松田町長、美郷町スポーツ協会会長の中村立夫さん、美郷町パークゴルフ協会会長の高橋隆治さん、前美郷町パークゴルフ協会会長の齊藤新一郎さんら4名での始球式で開幕し、真剣にかつ和気あいあいとパークゴルフを楽しむ出場者が賑わいました。



MISATOPICS

町の話



敬老記念行事

「敬老記念行事」が9月16日に美郷町公民館で開催され、山田眼科医院の院長である山田桂さんが「すこやかな目のために できること」と題して講演しました。

講演で山田さんは、すこやかな目のためにできることを「医療」「社会」「眼科医会」「一人ひとり」の4つポイントで話したほか、加齢による代表的な病気について、病気の見た目や仕組み、判断する基準、治療方法などを紹介しました。山田さんのお話に、会場の方々は熱心に耳を傾けていました。



■山田桂さん



▲美郷町民パークゴルフ大会であいさつをする松田町長

その後段の範疇の話になりますが、町は今年度から新たな

はなやう

係の講演聴講の機会、各種スポーツ競技の観覧・体験の機会などを作ってきたところです。

稲刈り後に漂う稲わらの香り、本当にいいですね。私はほんわかした情緒を感じるとともに、今年の場合「心の豊かさって何だろう」という、鬼が出てくるCM映像も頭に浮かんできます。

その「豊かさ」ですが、人それぞれ基準が違うために、万人が共感できる概念の定義付けは、本当に難しいのではないかと思います。その延長線上にある「幸せ」についても一緒だろうと思います。

こうした曖昧な概念を具現化していくことは、やはり難しいわけですが、それぞれの自治体はそ

れを求めて、いろいろがんばっています。美郷町もちろんです。

町のがんばりの方向は、まずは各種制度や施設等の充実を図り、町内での生活に「足る」状況を作っていくこと。そのため、これまで福祉や教育等での制度充実や、道路や公共施設等の整備に努めてきております。もう一つが、町民一人ひとりが自身の豊かさの基準を確かにしていく「機会」を多く作ること。そのため、これまで「感じる」、「考える」機会として、学友館企画展や自衛隊コンサートの鑑賞機会、美郷カレッジや教育・福祉関係の講演聴講の機会、各種スポーツ競技の観覧・体験の機会などを作ってきたところです。

COLUMN WINDS

コラム

風

豊かさを求めて

美郷町長 松田知己

取り組みに着手しています。町中央公園を野外芸術空間に変身させ、日常的な芸術作品とのふれあいide何かを感じ、考える機会にしたい目的です。年一作品ずつ設置していく予定で、複数の制作候補者から模型を提出してもらい、今月、選考会にて制作者を決定します。また、選考用に提出していただく模型作品も町の所蔵品になりますので、一粒で二度美味しい取り組みとなります。第一作目は来年度の設置になりますが、どんな作品が中央公園にお出ましになるか楽しみにお待ちいただき、多くの方が何かを感じ、考える機会となりますことを、心より期待したいと思えます。

10月は豊穣の秋の真只中。味覚も豊かさ実感の月です。どんな肴とお酒で豊かさを実感できるのか、左党のみなさんは待ち焦がれているのではないのでしょうか。もちろん私もその一人ですが。